

卒業を迎えて 中国からの留学生 李浩江くん

今年3月、晴れて卒業の中国からの留学生、李浩江くん(法)に在学中の思い出を聞いた。

中国・長春の東北師範大学附属高校を卒業し、日本の大学に入学しようと1993年来日。沼田市の日本語学校、東京の英語専門学校を経て97年に専大法学部に入りました。

アルバイトをしながらの学校生活で、在学中に結婚し3年前に男児が生まれました。一時休学もしましたが、家族の支えを励みに無事、卒業することが出来ました。

思い出は3年次の時、中西ゼミ(指導・中西優美子助教授)で、ホームページ(HP)づくりを担当したこと。これまでゼミのHPが存在していなかったのだから設計を始めました。情報処理の基礎はあったもののいざ取り組んでみると難しく、試行錯誤をしながら進めました。時間がかかったのはHPの“カオ”と言えるトップページのデザイン。背景作りに苦労しました。なかなかよく出来たと思うのは、写真満載のアルバムページです。

完成したものを見て中西先生の感想は、一言「すごい」。苦労が吹っ飛びました。中西先生や仲間たちとのゼミ合宿での交流も良い体験で、私個人の思い出も詰まった大切なHPになりました。

卒業後は現在、急成長を続けている(株)暖中カンパニー(札幌に本拠を置く外食産業(株)タスコシステムグループ)に就職します。顧客に100%満足してもらう商品、空間、サービスをつくり出すために、既成概念にとらわれず新しいフードビジネスを展開し続ける企業です。ここで修行し、いずれは独立したいと思っています。

〔3月27日/ニュース専修7面〕

高校の新教科「情報」の教員採用試験に合格 新卒でただ一人“狭き門”突破 曾田正彦さん

今年大学院を修了の曾田正彦さん(経営学研究科経営学専攻修士課程)が、高校の新教科「情報」の公立学校教員採用試験(埼玉県)に合格した。

「目的意識と集中力を持って励んできた結果が出てうれしいです」と喜びを表している。

03年度からスタートする高校「情報」科の各都道府県採用試験は、初年度にもかかわらず新規採用は東京都と埼玉県のみで、新卒者募集は埼玉県のみ。埼玉県の最終合格者6人のうち他の5人は教員経験者などの社会人で、曾田さんは唯一の新卒「情報」教員となった。

経営学部情報管理学科に学んだ曾田さんは事情があって1年間留年。その時「形あるものを学生時代に残したい」と「情報」教員になることを決意、01年度に大学院に進学した。本学経営学研究科は他の大学院にさきがけ教職課程(情報・専修免許)が設置されたばかり。竹村憲郎教授のもとで研究を続ける一方、教科「情報」に必要な知識を深め、試験に備えた。

教職課程で指導にあたった香山瑞恵ネットワーク情報学部講師は難関突破の曾田さんを「授業外においても情報検索、仲間との議論、教員との交流などに積極的で、他の受講生にフィードバックしていました」と称え、「本学は文系ですが、そういった専門性を持ちバランス良く社会と情報との接点を概観出来ることは『情報』教員を目指す際のたいへんな強みになります」と話している。

[3月27日/ニュース専修7面]

留学生の壮行昼食会

今年卒業する留学生の壮行昼食会が2月23日、生田キャンパスで開催され、出牛正芳学長、大林守国際交流センター長、後輩留学生ら多数が前途を祝福した。

卒業留学生を代表して李ちんくん(商・中国)は「私たちは、専大での経験を忘れずにそれぞれの道を歩んでいきますが、今後も皆様方の応援をお願いいたします」とあいさつした。

当日は魚田勝臣経営学部長、高津信三ネットワーク情報学部長、加藤浩平学部教授らも出席して歓談。留学生と共に思い出を語り合った。

〔3月27日/ニュース専修7面〕